



Look Around Shobara
ぐるり庄原 Camera Report
カメラレポート

REPORT ①

元気いっぱい演技きる
第11回庄原子どもミュージカル

庄原子どもミュージカル「ピーターパン」の公演が10月17日、庄原市民会館で開催されました。

庄原子どもミュージカルが発足して11年目を迎えた今年、庄原市・三次市・府中市から83人の子どもたちが集まり、この日のために5月から練習を重ねてきました。子どもたちは、ピーターパンに登場するそれぞれの役柄を精一杯演じ、身体全体を使っての踊りや元気いっぱいの演技に来場者から温かい声援と大き



な拍手が送られました。

またこの日、交流を続けている広島東洋カープの倉義和選手と末長真史選手が応援に駆け付け、自らの子どもころの夢を語り、出演する子どもたちにエールを送りました。

同実行委員会の児玉節委員長は「多くの方たちに支えていただいでできる舞台。思いっきり自分を解放し全力を出しきる子どもたちは、いつも感動を与えてくれる。これからも子どもたちの成長を間近で見届けていたい」と話していました。



▲笑顔いっぱいに演じる子どもたち

12体の手づくり牛が大行進
第12回口和モーモー祭が開催

REPORT ②

2年に1度の口和モーモー祭が10月9日・10日の両日、庄原市口和総合運動公園で開催されました。

初日はあいにくの雨模様でしたが、翌日には天候も回復し、延べ約18,000人の来場者でにぎわいました。

今年、宮崎県で発生した口蹄疫の影響から、恒例のモーモー大行進では本物の和牛に代わって「手づくり牛」が登場。町内外から参加した10チームが、本物の牛を忠実に再現した作品や牛にみたてて軽トラックを装飾した作品などそれぞれ12体を出品。堂々た



▲細かい演出で審査員にアピール

る行進やユーモアあふれるパフォーマンスに、会場は大きな笑いと拍手が響きました。

また、広島県産黒毛和牛の炭火焼コーナーは、用意した3,600パックが完売するほどの大人気。牛のもも肉丸焼きコーナーや地元の特産品即売ブースなども長い行列ができました。

このほかステージでは、地元の芸能グループや各団体による出し物が会場を大いに盛り上げました。



▲歓声を浴びて行進する手作り牛



ゆきむろ

雪室の魅力地域住民に 雪室見学や試食会

REPORT ⑥

雪室の良さを地域住民に体験してもらおうと、庄原商工会議所などでつくる庄原雪資源活用プロジェクト協議会が9月16日、高野町下門田の雪室で見学会を開きました。保育所の園児をはじめ近くの農家など約60人が参加。気温1度前後の薄暗い雪室に入ると、園児は「寒い」と言って身を縮ませ、「すごい！雪がある」「冷

たい」とはしゃいでいました。

その後、雪室野菜の試食会が行われ、6月末に雪室へ入れたダイコンやホウレンソウをカットしたりゆでたりして、朝採れたばかりのものと食べ比べをしました。「雪室の方が、甘みがある」「味の違いはよく分からない」など参加者の反応はさまざまでしたが、「3カ月前の野菜が食べられることがすごい。雪室を使って特産品を作りたい」と話していました。

この雪室は、鉄筋平屋65平方メートルで、2月に約300立方メートルの雪を保存。9月末で約25%の雪が残り、来年2月まで、日本酒などの付加価値を高める保存実験をします。

▲雪室の保存野菜を見学する住民

REPORT ⑦

ヒバゴンを紙芝居で語り継ぐ 「ヒバゴン紙芝居」ものがたりコンテスト

西城地域で活動している本の読み聞かせグループ「お話し会ダンボ」が主催する「ヒバゴン紙芝居」ものがたりコンテストの表彰式が10月14日、美古登小学校で行われました。

このコンテストは、ヒバゴン出沒40周年の今年、西城のシンボルであるヒバゴンの物語を形にしたいと考えていたお話し会ダンボが、西城円卓会議、NPO法人ヒバゴンの知恵袋、西城地域の各小中学校と共同で取り組んだものです。夏休みの自由課題として物語を募集したところ、西城小学校、美古登小学校から12点が応募。「物語としての面白さ」「西城らしさ」「将来に語り継ぐ感動」の3つの基準で審査されました。

優秀作品に選ばれた美古登小学校の白根明穂くん(4年)の作品「ずっとここにいるよ」は、西城の四季や里山が育んだ食文化が表現され、美しい自然や穏やかな

暮らしへの願いが込められています。白根くんは「ふだん家族といっしょにやっていることを、短い文で伝えるよう工夫した。西城のよさを知ってもらいたい」と話していました。

お話し会ダンボでは、この物語を長く語り継いでいこうと、大型紙芝居をつくり、地域で上演する予定です。



▲表彰を受ける白根くん

山間に響く太鼓の音色 第9回T A I K O交流会が開催

REPORT ⑧

第9回T A I K O交流会が9月26日、総領町なかつくに公園で開催されました。

市内の各和太鼓団体の交流と、和太鼓の熱心な応援者に対するお礼を目的に毎年開催されているこのイベントは、年ごとに旧市町の会場を順次巡り、晩秋に催される太鼓イベントとして定着。回を重ねるごとに交流の輪が広がっています。

今回は、市内8つの和太鼓団体が一同に集結し、勇壮な和太鼓演奏を野外ステージで披露。伝統的な獅子起しから始まる獅子舞や、ヒップホップと和太鼓のコラボレーションなど新しい取り組みもアトラクションとして盛り込まれました。地域団体などによるバザーも

会場を盛り上げ、最後は、全ての出演団体が一体となった合同演奏(豊年太鼓)で、来場者を見送りました。



▲総領響心太鼓の演奏

REPORT ③

舞台も作品もみんなで手づくり 西城町生涯学習フェスティバルが開催

西城地域で活動している団体、個人が活動の成果を発表する「生涯学習フェスティバル」が10月16日から18日にかけて、ウイル西城および西城公民館で開催されました。

このフェスティバルは、小学生から80歳代の高齢者までが出演、出品し、スタッフの役割も自ら担う手づくりの発表会です。

初日に行われた「第14回であいとふれあいフェア」では、歌や踊り、楽器の演奏などのステージ発表があり、17の多彩な演目を約200人が熱演。西城川子ども太鼓の演奏や、わんぱくクラブのエアロビックダンスでオープニングを盛り上げました。また、歌声ひろばの acordeonの演奏で客席の全員が合唱し、会場が一つになりました。

フェスティバルの期間をとおして行われた「第44回西城町美展」では、絵画、書、写真、工芸、生花などの作品が展示。今年、各部門の総作品数は498点に上り、西城ゆかりの芸術家による特別展も企画されるなど、より一層充実した展示となりました。



▲わんぱくクラブのエアロビックダンス

情と理をもって子育てを 総領自治振興区が子育て講演会

REPORT ④



総領自治振興区主催の子育て講演会が9月11日、総領自治振興センターで開催され、子育て中の保

護者や、保育士など多くの参加がありました。

「子どもの心の発達と保護者の役割」と題して、安田女子大学大学院兼任講師で臨床心理士の新宅博明さんが講演。「子どもの成長は、依存と分離によって成り立っていて、自分の存在を認めてもらうことで、安心して親離れできる」「あなたが居てくれるだけでうれしい」と話していただくだけで、素直に子どもは喜んでくれる」など、子どもとの接し方を自分の経験談を交え

て年代別にわかりやすく講演されました。参加者は「自分の思春期のころもそうだったと思い出した。今後の子育てに生かしたい」と話していました。



▲経験談を織り交ぜ語る新宅さん

REPORT ⑤

笑顔でふれあい世代間交流 比和保育所園児が吾妻園を訪問

比和保育所の年長・年中組の園児17人が9月15日、特別養護老人ホーム吾妻園を訪問しました。

園児たちは、大勢の高齢者を前に合奏や手話を交えた歌を元気よく披露。童謡「桃太郎」の歌にあわせて、おじいさん、おばあさんの肩たたきもしました。「おばあちゃん、おじいちゃんの手はあたたかいね」うれしそうに話す園児たちに、吾妻園の皆さんは「かわいいね」「元気になるね」と笑顔で話しかけていました。また、園児から手作りマスコット人形がプレゼントされ、皆さん喜んでいました。

比和保育所の山中淳子所長は「長い間社会のために頑張ってきた方たちだということを覚えていてほしい」と話していました。



▲握手でふれあう園児と高齢者

大勢の来場者が晴天の休日を楽しむ 第28回ふれあい東城まつり

REPORT 12

第28回ふれあい東城まつりが10月17日、東城小学校グラウンドを主会場に開催され、前夜祭「ふれあいの夕べ」を含め約3,500人の来場者でにぎわいました。



▲大黒様が「福を授ける～」とモチをまく

ステージでは、自治振興区(7団体)による歌や踊り、のど自慢、歌謡ショーと趣向を凝らした催しに、観客は笑ったり拍手したりと大忙し。また、東城中学校吹奏楽部の演奏や地デジ大使のクイズ大会もあり、とても賑やかなステージとなりました。

会場では、恒例となっているちびっこ相撲大会も行われ、ちびっこ力士の手に汗握る奮闘に、大勢の大人たちから歓声があがっていました。

このほか東城公民館では、生花、絵画などの作品が展示され、訪れた人たちは並べられた作品をじっくりと眺めていました。最後は、比婆荒神神楽のみなさんによる神楽、もちまきで締めくくり、好天の秋日を鮮やかに織り込む催しになりました。

みんなで啓発交通安全 セーフティ・アーチin高野

庄原地区交通安全協会の主催で交通安全の啓発を目的とした「セーフティ・アーチin高野」が9月17日、約200人が参加し開催されました。

これは、9月21日から始まった秋の全国交通安全運動に先駆けて



▲庄原地区交通安全協会の井上高野分会長から感謝状が贈呈

行われた催しで、庄原と東城を除く旧町が毎年順次開催しています。上高公民館で行われた式典では、交通

安全標語を応募した町内の小・中学校の児童・生徒の中から、優秀作品に選ばれた13人に感謝状が手渡されました。

また、新市・下高保育所の園児によるかわいいダンスや湯川雪山太鼓の迫力ある演奏で交通安全を祈願。最後に、高野小学校児童代表と高野老人クラブ連合会代表による交通安全宣言が行われ、参加者全員で交通事故防止を誓いました。

式典終了後、交通安全テント村を開設。高野福祉保健センター前で道行くドライバーを呼び止め、交通安全を呼びかけました。



▲ドライバーに呼びかける

子どもたちの発想無限大 第59回備後地区生徒児童発明くふう展

REPORT 14

社団法人発明協会広島県支部が主催する第59回備後地区生徒児童発明くふう展の入賞作品が10月7日・



▲庄原市長賞を受賞した東城小5年佐々木悠人くんの「足ふみチャッカー(着火)」

8日の両日、市役所ロビーで展示されました。

この発明くふう展は、発明工夫する楽しさと創作する喜びを体得させることを目的に毎年開催されているもので、備後地区で今年7月から9月に395作品(自由作品部門328、課題作品部門67)の応募がありました。このうち、市内からは、小学校9校36人、中学校1校18人の出品があり、自由作品部門で3作品が入賞しました。展示された作品は、子どもたちの工夫が随所にみられ、すぐにでも実用できそうな力作も並んでいました。

今回入賞した作品は、11月に開催される県展に出品され、そこで選ばれた優秀作品は、東京で開かれる全国展に推薦出品されます。

REPORT 9

高垣樹里さんが広島県話し方連盟会長賞受賞 「少年の主張」・中学生話し方大会

「少年の主張」広島県大会・中学生話し方大会が9月23日、広島市内で行われ、口和中学校の高垣樹里さん(3年)が、広島県話し方連盟会長賞を受賞しました。

この大会は、中学生が論理的に考える力や正しく伝える力を身に付けることや、皆さんに中学生への理解を深めてもらうことを目的に毎年開催されています。

今年は、県内各地から2,300人を超える応募者の中から選ばれた35人(庄原市からは4人選出)が、日ごろ思っていることや感じていることを発表。高垣さんは「命をありがとう」というタイトルで、学校での「命の授業」をとおして感じたことや、生み育ててくれた家族への感謝の気持ちを精一杯伝えました。

高垣さんは「みんな上手に発表されていて、まさか自分が受賞できるなんて本当に驚きました。今まで支えてくださった皆さんのおかげです」と喜んでいました。

賞状を手に喜ぶ高垣樹里さん▶



明るい色で気持ちも明るく元気になって 社団法人日本塗装工業会が無償で塗装ボランティア

REPORT 10

社団法人日本塗装工業会広島県支部が9月24日、西城町大戸地区集会所の外壁や屋根などの塗装を無償で行いました。

同工業会は、毎年11月16日を「いいいろ塗装の日」として、全国一斉に社会奉仕活動を行っています。



▲明るいクリーム色に塗装された外壁

広島支部北部ブロックは、庄原市と三次市を一年おきに実施していますが、今年三次で実施

予定だった奉仕活動を、7月16日の集中豪雨で被災した庄原地区に変更し、時期を2カ月早めて行われました。

この日の3日前に足場を設置して水洗いを行っていた外壁や屋根を、三次と庄原の塗装会社(ともに3社ずつ)計6社8人が、明るくきれいな外観に仕上げました。

同工業会会員の久保崇俊さんは「地元で集会所を利用される方に、少しでも元気を出してもらえれば」と汗をぬぐっていました。



古家真屋敷といざなみ工房の周辺を清掃 「シルバーの日」に奉仕活動

庄原市シルバー人材センター比和支所(若林光男支所長)が10月16日、古家真屋敷といざなみ工房周辺の清掃作業を行いました。

この奉仕活動は、毎年10月を「シルバー人材センター事業普及啓発月間」、その第3土曜日を「シルバーの日」と定めて全国一斉に行われているものです。

当日は会員28人が参加し、市が所有する古家真屋敷の周辺清掃やいざなみ工房周辺の草刈りやゴミ拾いなどに汗を流しました。

市役所比和支所の岩山泰憲支所長は「古家真屋敷は、城郭を思わせる素晴らしい造りで当時の繁栄ぶりが残っている歴史的にも重要な施設。いざなみ工房の周辺

もあわせて清掃していただき大変ありがたい」と感謝していました。



▲奉仕活動に汗